

# 亜木津新聞

ゾンビのあれこれ

大ヒットした「カメラを止めるな」をはじめ、ゾンビ映画は現在最も人気のあるジャンルの一つですが、ゾンビっていったい何なのでしょう？吸血鬼やフランケンシュタインもゾンビ？ゾンビの本来の意味は「奴隷」だった



「ゾンビ」は西アフリカ語で「死体」や「死者の魂」を意味する

アフリカ人たちはフランスの奴隷商人達に中米の植民地ハイチ等に移送され、強制労働させられた。アフリカの宗教は、ハイチでブドゥワー教に変わり、その司祭は魔術によって死者を蘇らせ、意思を持たない奴隷とした。これがハイチ語の「ゾンビ」であり、意思も、名前もなく生きて屍として働き続ける自分たち奴隷のことだった。やがて反乱後独立したハイチを、フランス人は恐れ、「人食い」の国と呼んだ。



ゾンビ

死体が蘇生した半死人で、人の脳を食べる。噛まれた人はゾンビになる。



キョンシー

ゾンビと同類で噛まれると伝染するが、死後硬直の影響で、動きが硬い。

参考：Wikipedia



フランケンシュタインの怪物

フランケンシュタインは死体のパーツを寄せ集めて作られた生命体でゾンビではない。差別を受けて暴力的になるが、人を食えず、伝染もしない。

参考：zombieresearchsociety



吸血鬼

人間の血を好み、噛まれると吸血鬼になる。美しくカリスマ性があり、魅力に溢れ、優れた超能力を持つ。ゾンビとは格が違っていて、一緒にせんといえない。

参考：Difference Between



ゾンビからの総攻撃に備えた米国防総省の作戦計画で地球は救われるか？！

米国防総省は、米国防総省の対ゾンビ訓練計画書を入手した。訓練には、ゾンビの急所である頭を集中的に攻撃するなどの指示や、大統領以下、関係者の指揮系統と役割が明示されていた。

参考：CNN Politics



◆公共交通機関の車内の「リュックマナー」は東高西低

満員の電車やバスでリュックサックやカバンを前抱えにする「リュックマナー」は関東は多いが関西はまだ低いのではと言われています。私もヒネススリッパで通勤していますが、ほぼ着席できているので、席に座ると前抱えしています。人口が多く交通網が発達している大都市ほど社内マナーが向上する。鉄道利用者と路線の多さから関東の方がマナー意識が高いのかも、とおっしゃるマナー専門家もいます。

観光地京都の市バスでは、観光客が車内に持ち込むキャリーバッグが車内混雑やダイヤの乱れになっているとニュースになっています。コインロッカーやホテルの運送サービスを観光客に紹介してもほとんど断られるそうです。中には混雑する路線には大型バスを導入したら、と逆提案をする観光客までいるそうです。職員はマナー違反とまでは言えないので強制はできないし、と頭を抱えているそうです。

順位	迷惑行為項目	割合 (%)
1位	騒々しい会話・はしゃぎまわり等	33.2%
2位	座席の座り方	31.1%
3位	荷物の持ち方・置き方	29.8%
4位	歩きながらの携帯電話・スマートフォンの操作	29.6%
5位	乗降時のマナー	28.1%
6位	ヘッドホンからの音もれ	20.1%
7位	携帯電話・スマートフォンの着信音や通話	18.5%
8位	ゴミ・空き缶等の放置	16.0%
9位	喫煙	15.3%
10位	酔っ払って乗車する	15.3%
11位	車内での化粧	13.7%
12位	電車の床に座る	11.8%
13位	混雑した車内での飲み食い	10.3%
14位	混雑した車内で新聞や雑誌・書籍を読む	7.9%

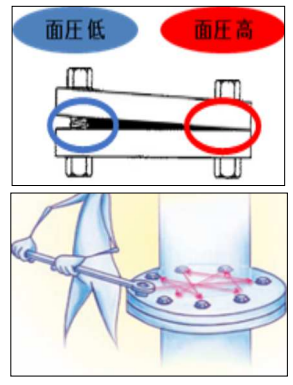
日本民営鉄道協会から「駅と電車内の迷惑行為ランキング」が発表されています。HPのアンケートから得た2419人の回答を集計したそうです。

アンケート結果では、9年連続の第1位で「騒々しい会話・はしゃぎまわり等」。「座席の座り方」が2年ぶりに2位となり、そのうち多くの人が「座席を詰めて座らない」行為を迷惑と感じているようです。第3位には「荷物の持ち方・置き方」がランクインしており、リュックマナーも上位になっていますね。最近でもまだ見かけるものに第7位の「携帯スマホの着信」や第11位の「車内での化粧」がありますし、足を投げ出して座っている人、シルバーシートに座ってスマホをいじっている若者など、車内アナウンスで注意を呼び掛けている人が、明らかに「私は例外」なのかマナー意識が低い方もいるようです。私は郊外の駅から通勤していますが、トーストの食パンを持った女子学生が乗り込んで来た時にはさすがに驚きました。朝食を食べる時間もなく家族に駅まで送ってもらってクルマ内でも食べきれずに電車に乗ったのでしょうか、他の乗客も苦笑していました。

また満員電車の中でスマホをいじっている方を肩越しに後ろから覗き込んでいる人を見かけますが、どちらもどっちも良い気持ちはしませんよね。気を付けたいものです。また反対に、電車や駅を利用している時に「うれしかった」「心が温まった」行為として「ベーカーを押して降車している人を周囲の人が協力して手伝っていた」や「座席のリュックを倒すときに一声かけてもらった」などの回答もあり、思いやりのある行動に周囲の人にも好感の輪が広がり、互いの声かけで気持ち良い利用につながったなどの話も、気持ちよく利用したいですね。

【出典：「浦島花子が見た日本」京都新聞】  
【日本民営鉄道協会HPほか】

## 【フジモンのガasket講座】



ボルト締め付けの話です。ボルトは、段階的に徐々に強い力で締め付けましょう。はじめに強い力で締めると、右上図のように、片締めになり、一旦片締めになると対角のボルトを締めてもフランジの平行度は戻りません。同じ強さで締め付けても、片側の面圧は高く、もう一方では面圧が低くなるため、ガasketの圧壊や漏れの発生につながることもあります。詳細なガasket装着手順は規格等に譲りますが、まず、ボルトにナットを取り付け、指でボルトの端まで回してください。ねじ部に不具合のあるボルトは交換してください。次に右下図のように、対角方向にボルトを締め付けていきます。締め付けトルクの強さは最低でも三段階に分けます。例えば1周目は目標トルクの30%、2周目は60%、3周目は100%にて締め込み、更にもう1周100%で時計回りに最終締め込みを行ってください。

参考：クリンガー技術資料

## 【読者よりのお便り】

『旅行のトリビア』面白く拝見しました。清水の舞台から飛び降りた人が234人。よく記録に残っていましたね。テレビの泉のこころは毎日回収ですか。知らなかった。『カース』でも言っています。『旅は人生の「褒美だ」』若い時の旅は特にいいですね。

A.S様



『マイ・インターン』2015年 アメリカ 121分

監督：ナンシー・メイヤーズ  
脚本：ナンシー・メイヤーズ  
出演：ロバート・デニロ  
アン・ハサウェイ

人気通販サイトの女性オーナー、ジュリエットは30歳にして大成功をおさめながらも、忙しすぎる日々で心身ともに疲れ果て、会社の誰にも心を開けずいた。そんな時、70歳のシニアインターンのベンが助手として配属されてくる。最初は疎ましく感じられるジュリエットだったが、誠実で人間味溢れるベンの魅力に次第に信頼をよせていく。

女性監督らしい洒落で優しい映画。出てくる人がみんな良い人で、現実で嫌なことがあった時に見れば、癒される事、間違い無し。デニロが茶目っ気たっぷり可愛いおしいちゃんを好演。女性向けの映画ながら、誰が見てもホッとする素敵な映画です。

ピカデリー加藤

